

UTILITY MODEL

(11)Publication number : JP 63-114626 U

(43)Date of publication of application : 23.07.1988

(51)Int.Cl.

A61F 13/02

(21)Application number : 62-5159

(71)Applicant : Aso Seiyaku Kabushiki Kaisha

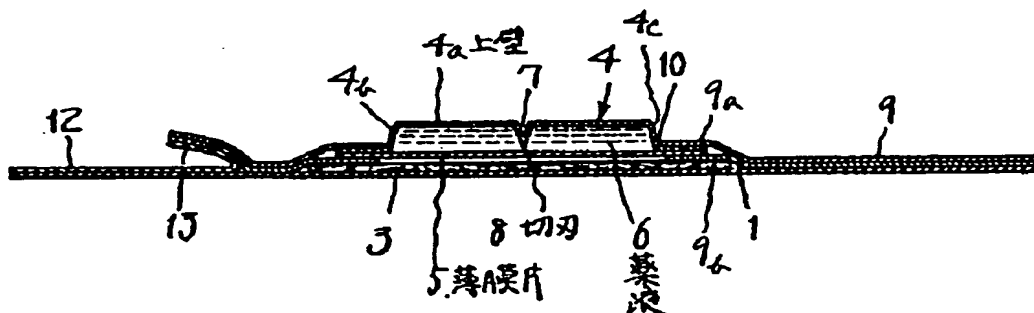
(22)Date of filing : 17.01.1987

(72) Creator: Shosho Murata

(54) EMERGENCY COURT PLASTER

Outline:

The emergency court plaster comprises an adhesive sheet 1, a pad 3 such as gauze, a capsule body 4 having a liquid drug 6 therein, a thin film 5, a groove 7 having a blade 8 closing with the thin film 5. In using, when the user presses the projection 7 with the blade 8 to break the thin film 5, the pad 3 gets wet with the liquid drug 6.



公開実用 昭和63- 114626

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63- 114626

⑬ Int.Cl.⁴

A 61 F 13/02

識別記号

庁内整理番号

B-6737-4C

⑭ 公開 昭和63年(1988)7月23日

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 救急用絆創膏

⑯ 実 願 昭62-5159

⑰ 出 願 昭62(1987)1月17日

⑱ 考 案 者 村 田 尚 昭 熊本県菊池郡菊陽町津久礼94
⑲ 出 願 人 阿 蘇 製 薬 株 式 会 社 熊本県菊池郡菊陽町津久礼91番地の1
⑳ 代 理 人 弁 理 士 江 口 俊 夫

明 細 書

1. 考案の名称

救急用絆創膏

2. 実用新案登録請求の範囲

粘着シート(1)の上面中央部に貼着したパッド(3)上に、底面がアルミ箔等の薄膜片(5)で形成され、且つ内部に薬液(6)を封入してなるカプセル体(4)を載置すると共にこのカプセル体(4)を前記粘着シート(1)に剝離可能に貼着した剝離紙(9)により固定してなる救急用絆創膏において、前記カプセル体(4)の上壁(4a)の中央部に、両側壁面(4d)(4d)間に亘って前記薄膜片(5)に向かう断面V字状の折曲げ用条溝(7)を膨出、形成して該折曲げ用条溝(7)の下端縁を切刃(8)とし、この切刃(8)を中央部から両側に向かって徐々に上方に傾斜させてなる救急用絆創膏。

3. 考案の詳細な説明

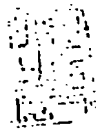
(産業上の利用分野)

本考案は内部に薬液を封入してなるカプセル体を有する救急用絆創膏に関するものである。

(従来 of 技術)

従来から、救急用絆創膏としては種々のものが考案されており、例えば、粘着シートの上面中央部に薬剤を含浸、乾燥させたガーゼ等のパッドを貼着し、その上面を左右に分離可能な剥離紙で被覆してなる絆創膏が広く使用されているが、このような構造の絆創膏によれば、薬剤がパッドに含有されているにも拘わらず、乾燥状態になっているために、創傷口を傷める虞れがあるばかりでなく、創傷面に当接しても、創傷部からの分泌物によってパッド部の薬剤が溶出してこない限り、有効な消毒殺菌効果を得ることができないものである。

このため、本願考案者等は、実開昭60-63324号公報に示すように、粘着シートの上面中央部に貼着したパッド上に、底面がアルミ箔等の薄膜片で形成した適宜形状のカプセル体を配設して使用時に該カプセル体の上面壁を押圧することにより該上面壁の下面中央に突設した突起で薄膜片を破壊させてカプセル体内の薬液をパッド上に



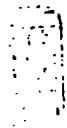
流出含浸させるように構成した救急用絆創膏を考案した。

(考案が解決しようとする問題点)

しかしながら、このような構造によれば、カプセル体の上面壁の下面中央部に突設した突起によってカプセル体を底面薄膜片を正確に破壊させる利点を有するが、破壊が薄膜片の中央部のみで行われて破壊による薬液流出口の開口面積が小さく形成され、そのため、カプセル体内からの薬液の流出が遅くなり、パッドに十分な薬液を含浸させるのに手間を要すると共にカプセル体内の外周部にある薬液が完全に排出されることなくカプセル体内に残存する場合が生じるという問題点があった。

本考案はこのような問題点をなくしたもので、カプセル体内の全ての薬液を円滑且つ迅速にパッドの中央部から周辺部へと流出、含浸させるようにした救急用絆創膏の提供を目的とするものである。


(問題点を解決するための手段)



上記目的を達成するために、本考案の救急用絆創膏は、実施例に対応する図面に示すように、粘着シート(1)の上面中央部に貼着したパッド(3)上に、底面がアルミ箔等の薄膜片(5)で形成され、且つ内部に薬液(6)を封入してなるカプセル体(4)を載置すると共にこのカプセル体(4)を前記粘着シート(1)に剥離可能に貼着した剥離紙(9)により固定してなる救急用絆創膏において、前記カプセル体(4)の上壁(4a)の中央部に、両側壁面(4d)(4d)間に亘って前記薄膜片(5)に向かう断面V字状の折曲げ用条溝(7)を膨出、形成して該折曲げ用条溝(7)の下端縁を切刃(8)とし、この切刃(8)を中央部から両側に向かって徐々に上方に傾斜させてなることを特徴とするものである。

(作 用)

使用時に、カプセル体(4)を折曲げ用条溝(7)からパッド(3)側に向かって二つ折りするように折曲げると、先ず、該条溝(7)の下端縁で形成した切刃(8)の中央部がカプセル体(4)の底面薄膜片(5)の中央部に当接してその部分を破壊し、該破壊部からカプ

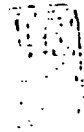


セル体(4)内の薬液がパッド(3)上に流出を開始する一方、条溝(7)からの折曲げが進行するに従って該切刃(8)の両側傾斜部が徐々に薄膜片(5)を破壊してゆき、その破壊部が拡大して薬液の流出が増大すると共にカプセル体(4)の二つ折りによって薬液が破壊した開口部に向かって流動して全ての薬液が円滑且つ迅速にパッド(3)に含浸させることができるものである。

(実 施 例)

本考案の実施例を図面について説明すると、(1)は長方形条の布、プラスチック又は不織布等の上に粘着剤(2)を塗布してなる粘着シートで、その上面中央部にガーゼ或いは積層吸収紙片等よりなるパッド(3)を貼着してある。

(4)はプラスチックシート片を上方に向かって断面長方形ないしは等脚台形状に膨出、形成してなる偏平矩形状のカプセル体で、上壁部(4a)の四方面に下方に向かって前後壁部(4b)(4c)と両側壁(4d)(4d)を一体に周設し、これらの壁部の下端に外方に向かって水平に突出したフランジ部(4e)を



連設してなるものであり、その下端開口部をアルミ箔やグラシン紙等の破断可能な薄膜片(5)で閉止し、この薄膜片(5)の外周上面を前記フレンジ部(4e)の下面に接着剤等により一体的に貼着して該薄膜片(5)で底面を構成してある。

(6)はカプセル体(4)内に充填、封入した殺菌消毒剤、鎮痛剤、止血剤等の薬液である。

(7)はカプセル体(4)の上壁部(4a)の中央部を両側壁部(4d)(4d)間に亘って下方に膨出させることにより形成した断面V字状の折曲げ用条溝で、その下端尖端縁を薄膜片破壊用切刃(8)に形成してある。

この切刃(8)は条溝(7)をその中央部から両側壁部(4d)(4d)に向かって徐々に浅くすることにより、中央尖端(8a)から上方に傾斜する両側傾斜刃部(8b)(8b)に形成され、中央尖端(8a)は薬液(6)を密封した薄膜片(5)の上面に当接又は極小間隔を存して近接させてある。

(9)は粘着シート(1)の一端部を除く粘着面(2)に剝離可能に貼着した剝離紙で、紙又は柔軟なプラスチックフィルムよりなる表裏2枚の剝離紙(9a)(9

a)をラミネート（重合接着）してなり、裏側剥離紙(9b)の下面全面にシリコン層等の剥離層を設けて該下面を前記粘着シート(1)の粘着面に剥離可能に仮接着してある。

又、粘着シート(1)上に貼着した前記パッド(3)上に重ね合わせる該剥離紙(9)の部分において、表側剥離紙(9a)には前記カプセル体(4)の平面形状と略同一形状の保持孔(10)を穿設している一方、裏側剥離紙(9b)には該保持孔(10)に合致させて保持孔(10)と同大、同形の透孔(11)を穿設してあり、カプセル体(4)のフランジ部(4e)をこれらの表裏剥離紙(9a)(9b)間に挟持させると共にカプセル体(4)の前後、両側壁部からなる周壁を保持孔(10)を通して上方に突出させてある。さらに、カプセル体(4)の底面を形成した薄膜片(5)は裏側剥離紙(9b)に設けた前記透孔(11)を通じてパッド(3)の上面中央部に重ねてある。

なお、剥離紙(9)に対するカプセル体(4)の取付けは、前記のような表裏剥離紙(9a)(9b)に挟持させることなく、一枚の剥離紙に貼着固定させてもよく、さらには、剥離紙がプラスチックよりなる場

合には、該はりく紙と一体にカプセル体(4)を形成したものであってもよい。

(2)は粘着シート(1)の一端部上面に剝離可能に貼着した一端部剝離片で、その内端部を適宜巾、上面側に折り返し重合し、その折り返し端部(4)上に前記剝離紙(9)の対向端部を接着することなく重合させて剝離紙(9)の剝離を容易に行なえるようにしてある。

このように構成した救急用絆創膏は、使用に際して、カプセル体(4)を断面V字状の折曲げ用条溝(7)からパッド(3)側に向かって二つ折りするように折曲げながら上壁(4a)を下方に押圧すると、まず該条溝(7)の下端縁で形成した切刃(8)の中央尖端(8a)がカプセル体(4)の底面薄膜片(5)の中央部に圧着したその部分を破壊し、該薄膜片(5)の破壊部からカプセル体(4)内の薬液(6)がパッド(3)上に流出を開始する一方、条溝(7)からの折曲げが進行するに従って薄膜片(5)と切刃(8)とが相対的に接近する方向に変位して上向きに傾斜した切刃(8)の両側傾斜刃部(8b)(8b)が薄膜片(5)をさらに破壊してその破壊

部を拡大させることになり、薬液(6)の流出が増大すると共にカプセル体(4)内の両端部に存在する薬液(6)が二つ折によって傾斜した薄膜片(5)上を破壊部に向かって流動して円滑且つ完全に排出されるものである。

この時、パッド(3)内に含入、拡散した薬液(6)は裏側剥離紙(9b)の下面側に達するが、該裏側剥離紙(9b)の下面にはシリコン層等の剥離層を設けているので、この剥離紙側に付着することなく、全ての薬液(6)をパッド(3)内に含浸させることができる。

こうして、カプセル体(4)内の薬液をパッド(3)に含浸、付着させれば、剥離紙(9)を剥離してパッド(3)を創傷部等に当てがい、粘着シート(1)を該創傷部等の周辺に貼着するものであるが、剥離紙(9)の剥離時には、前述したように、粘着シート(1)の一端部に貼着した剥離片(2)の内側折り返し端部(23)上に剥離紙(9)の内側部を重ね合わせているので、該内側部を摘んで剥離紙(9)及び剥離片(2)を容易に剥離できるものであり、剥離後、空になった前記カ



ブセル体(4)を剥離紙(9)と一体にした状態で捨て去ることができるものである。

(考案の効果)

以上のように本考案の救急用絆創膏によれば、粘着シート(1)の上面中央部に貼着したパッド(3)上に、底面がアルミ箔等の薄膜片(5)で形成され、且つ内部に薬液(6)を封入してなるカプセル体(4)を載置すると共にこのカプセル体(4)を前記粘着シート(1)に剥離可能に貼着した剥離紙(9)により固定してなる救急用絆創膏において、前記カプセル体(4)の上壁(4a)の中央部に、両側壁面(4d)(4d)間に亘って前記薄膜片(5)に向かう断面V字状の折曲げ用条溝(7)を膨出、形成して該折曲げ用条溝(7)の下端縁を切刃(8)とし、この切刃(8)を中央部から両側に向かって徐々に上方に傾斜させてなるものであるから、カプセル体(4)の中央部を断面V字条の条溝(7)の部分から正確に折り曲げることができ、しかも該条溝(7)の下端縁で形成した切刃(8)は、その中央部を最も下方に突出させているので、条溝(7)からの折曲げによって、まず、該切刃(8)の中央部によ

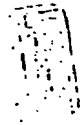


り薄膜片(5)の中央部を破壊することができ、カプセル体(4)内の薬液(6)をパッド(3)の中央部上に確実に流出、含浸させることができ、さらに、切刃(8)を中央部から両側に向かって徐々に上方に傾斜させているので、条溝(7)の折曲げが進行するに従ってその傾斜切刃部で薄膜片(5)の破壊を外方に拡大させていくことができ、従って、カプセル体(4)内の薬液(6)の流出量を増大させると共にパッド(3)に対して薬液(6)を中央部から周辺側に向かって含浸させることができパッド(3)外への薬液(6)の漏出をなくすることができるものである。

又、条溝(7)からカプセル体(4)を折曲げると、カプセル体(4)の両端部が中央部に対して上方に傾斜した状態となるので、カプセル体(4)内の隅部の薬液(6)が条溝(7)側に向かって流動し、カプセル体(4)内に薬液(6)を残存させることなく、全ての薬液(6)を迅速且つ確実にパッド(3)上に流出、含浸させることができるものである。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示すもので、第1図は



の分解状態の斜視図、第2図は縦断側面図、第3図はカプセル体の平面図、第4図は第3図A—A線における縦断側面図、第5図は同図B—B線における縦断正面図である。

(1)・・・粘着シート、(3)・・・パッド、(4)・・・カプセル体、(4a)・・・その上壁部、(4d)(4d)・・・両側壁部、(5)・・・薄膜片、(6)・・・薬液、(7)・・・折曲げ用条溝、(8)・・・切刃、(8a)・・・中央尖端刃部、(8b)(8b)・・・両側傾斜刃部、(9)・・・剥離紙。

実用新案登録出願人 阿蘇製薬株式会社
代理人 弁理士 江口 俊夫



図 1

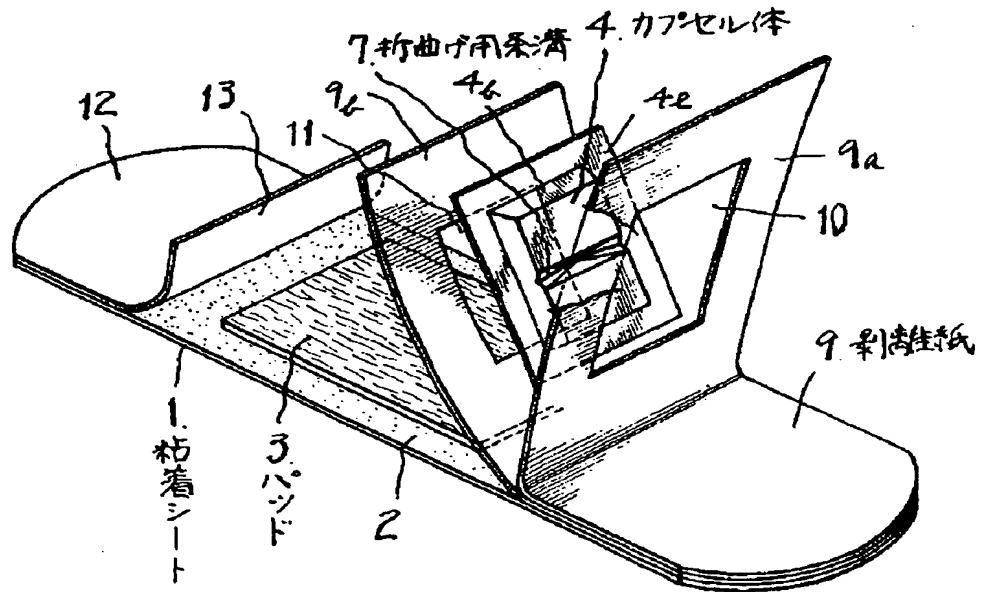
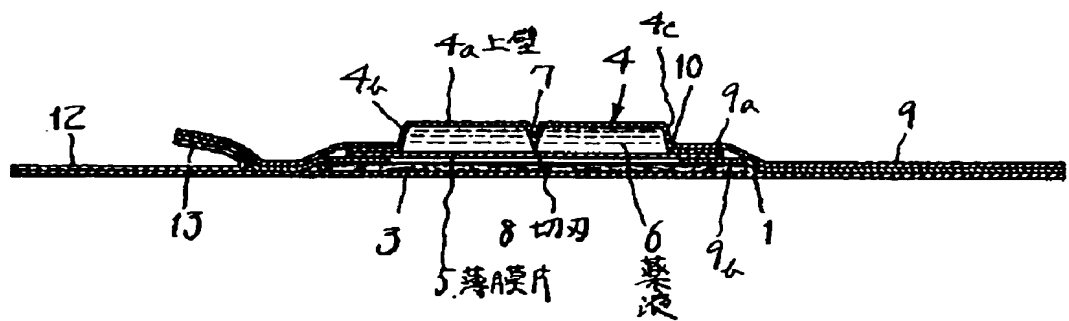


図 2



329 実開 13-114626

代理人 弁理士 江口 俊夫

図 3

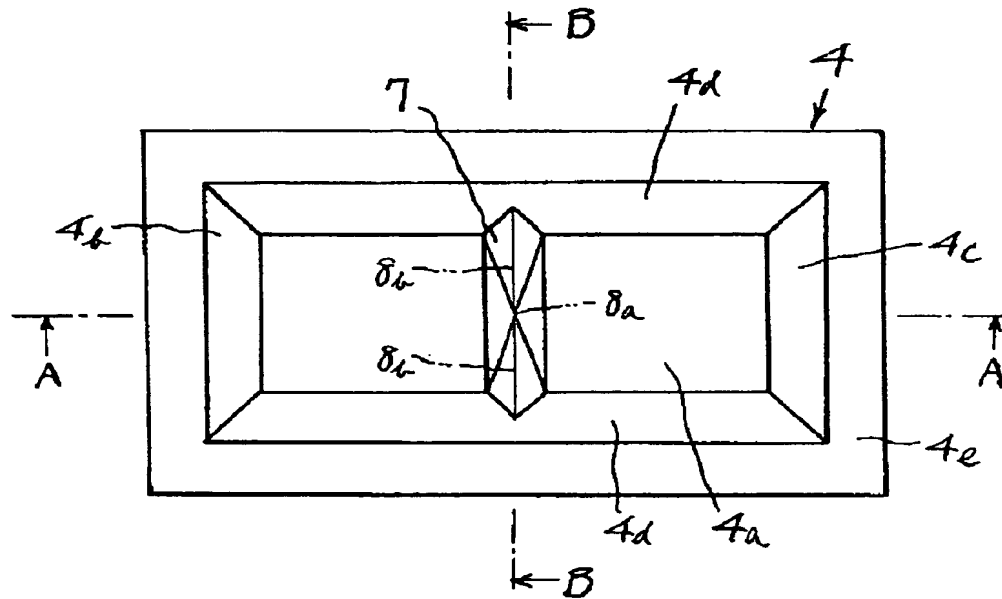


図 4

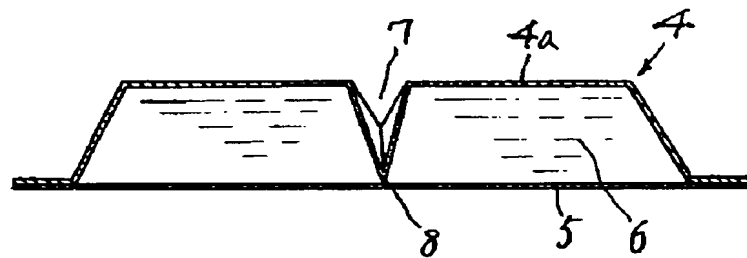
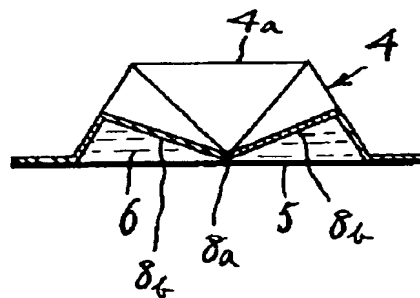


図 5



330

実用 昭 63-114626

代理人 弁理士 江口 俊 夫